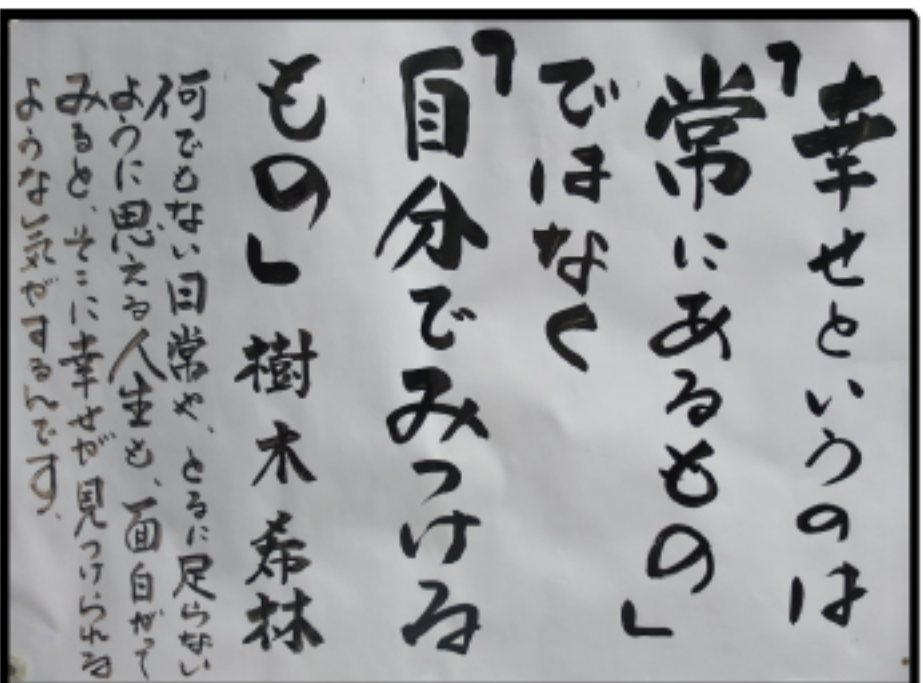


# ◎なまますて

※「なまますて」とは……インドのあいさつで「おはよう」や「こんにちは」の意味で使われます。我々の称える「南無」の語源とも言われています。

光林寺寺報 第二十一号  
令和二年八月九日  
時宗 林長山 光林寺 発行



※住職筆

この言葉は、一昨年、七十五才で亡くなられた女優、樹木希林さんの言葉です。あなたにとっての幸せとは？の問いに答えられたものです。著書がミリオンセラーになっていますので、お読みになった方も多いでしょう。

自由奔放に生きられた方というイメージが強い方なのですが、実は地道に質素に実直に生きられた方だったということが分かります。

釈迦の「四苦八苦」…人間が生きていくには避けられない苦しみがある。その苦しみとどう向かい合うか？…という難問に、彼女らしくその飄々とした生き様・死に様で答えを示してくれたように思います。

『四苦』とは、生・老・病・死 それに「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」を加えて『八苦』となります。それでは希林さんの言葉を紹介しましょう！

『老』…年を取ることとは絶対に面白いこと。若い時には「当たり前」だったことが出来なくなる。

それを不幸と思わずに面白がること。

『病』…がんにならなかつたら、私自身がつまらなく生きて、つまらなく死んでいったでしょう。

人生が全て必然なように私のがんも全く必然。

『死』…いつか死ぬじゃなくて「いつでも死ぬ」という感覚。借りていたものをお返しするんだ…

と考えるととても楽になる。死というものを日常にして、子供や孫に感じてもらうと怖くなくなる。そうすれば人を大事にする。

『生』…人間が抱えられるものには限度がある。それ以上抱えようとしても抱えきれない。

「幸せというのは常にあるものではなくて、自分で見つけるもの。何でもない日常や、取るに足らないように思える人生も、おもしろがってみるとそこに幸せが見つつけられるような気がする。

どうでしょう。ほんの一部分ですが紹介してみました。難しい釈迦の言葉も少しだけ身近に感じられたのではないですか。

「きれいな人はきれいに」「そうでない人もそれなりに」

(悠阿)

## ☆お寺からのお知らせとお願い

◎新型コロナウイルス感染予防対策として、来山時のマスク着用と手指の消毒をお願いしております。また、お茶の接待も自粛させていただいておりますのでご了承下さい。

◎秋季開山忌(十一月二十三日)につきましては感染の状況を踏まえ十月下旬を目処に開催の可否を決定したいと考えております。決定致しましたら総代・組頭を通してお知らせ致します。